

岐阜市の児童生徒における「医薬品について」のアンケート調査結果

日本学術振興会科学研究費補助金 事業

岐阜薬科大学実践薬学大講座病院薬学研究室教授 寺町ひとみ

令和3年11月～令和4年1月に、継続した調査としまして、岐阜市の小学校6年生、中学校2年生の児童・生徒を対象にした「医薬品の正しい使い方」に関する知識・意識調査を行いました。ご協力いただきましたこととお礼申し上げます。以下にアンケート調査結果についてご報告いたします。

1. 回収数および有効回答率

	学校			児童生徒							
	配布校	回収校	回収率 (%)	配布人数	回収人数	回収率 (%)	有効回答数(人)	有効回答率 (%)	性別		
									男	女	性別無回答
小学校(岐阜市)	46	37	80.4	1071	1060	99.0	1022	96.4	513	504	5
中学校(岐阜市)	23	21	91.3	1270	1265	99.6	1219	96.4	608	602	9

小学校は同意が得られた37校6年生1クラス全員の児童を対象にした。中学校も同意が得られた21校2年生2クラス全員の生徒を対象にした。また、本調査に協力の同意が得られた児童・生徒についてまとめました。

2. 児童・生徒における学校種別集計結果

(1)体調不良時の対処(複数回答)

(%)	早めに寝る	家で薬を飲む	家族に相談する	学校の先生に相談する	病院に行く	薬局で相談する	その他
小学校	63.6	63.3	73.0	17.7	53.5	4.4	5.7
男	64.5	60.2	66.5	16.0	52.4	4.7	5.5
女	62.7	66.5	80.0	19.4	54.6	4.2	6.0
χ^2 検定	NS	p<0.05	p<0.001	NS	NS	NS	NS
中学生	65.8	60.0	64.3	11.2	45.2	2.3	5.6
男	64.8	55.9	55.9	11.0	45.4	2.8	6.4
女	66.6	64.3	73.3	11.6	45.0	1.7	4.5
χ^2 検定	NS	p<0.01	p<0.001	NS	NS	NS	NS

小学生は、家族に相談するが73.0%、中学生は早めに寝るが65.8%と一番多かった。家族に相談する、学校の先生に相談する、病院に行くについては、いずれも小学生から中学生にかけて減少傾向を示した。性差については、特に家で薬

を飲む、家族に相談するについて女子が男子より多かった。

(2)医薬品の使用目的(複数回答)

(%)	腹痛	頭痛	下痢	かぜ	発熱	歯痛	アレルギー	乗物酔い止め	その他
小学校	34.7	44.8	15.3	72.9	68.1	4.5	41.6	36.6	8.6
男	30.6	43.1	15.6	70.6	64.3	4.1	39.6	28.5	7.4
女	38.7	46.4	14.7	75.6	72.2	5.0	43.7	45.0	9.9
χ^2 検定	p<0.01	NS	NS	NS	p<0.01	NS	NS	p<0.001	NS
中学生	38.0	50.4	15.1	65.5	66.3	4.7	37.8	33.8	5.3
男	29.6	48.2	15.0	61.0	61.3	4.3	33.2	28.9	5.9
女	46.7	53.0	15.4	70.1	71.4	5.1	42.7	39.0	4.5
χ^2 検定	p<0.001	NS	NS	p<0.01	p<0.001	NS	p<0.001	p<0.001	NS

かぜや発熱の使用目的が小学生・中学生いずれも多かった。全体的に男子より女子が多いが、特に腹痛、発熱、酔い止めについては、女子が男子より多かった。

(3)医薬品の使用時における相談相手(複数回答)

(%)	両親や祖父母	兄弟姉妹	友達	医師・歯科医師	薬剤師	学校の先生(保健室等)	①	②	その他
小学校	93.3	7.4	4.0	25.3	11.2	6.2	16.3	9.9	0.5
男	93.4	5.3	3.1	24.4	11.9	5.3	14.2	8.0	0.6
女	93.3	9.5	4.8	26.2	10.5	7.1	18.5	11.5	0.4
χ^2 検定	NS	NS	NS	NS	NS	NS	NS	NS	NS
中学生	91.1	6.0	4.3	23.1	10.7	3.7	0.3	16.1	13.5
男	88.7	4.8	3.5	23.0	10.9	3.8	0.3	14.6	12.7
女	93.7	7.3	5.3	22.9	10.6	3.7	0.3	17.8	14.3
χ^2 検定	p<0.01	NS	NS	NS	NS	NS	NS	NS	NS

- ①治療や予防のためにいつも飲んだり、使ったりしなければならない薬があるので、自分の判断で使う
 ②治療や予防のためにいつも飲んだり、使ったりしなければならない薬があるわけではないが、自分の判断で使う
 相談相手では両親・祖父母が小学生・中学生いずれも多く、特に中学生では女子のほうが男子より多かった。

(4)自己判断による購入経験

(%)	ある	ない
小学校	4.3	94.7
男	3.7	95.3
女	5.0	94.2
χ^2 検定	NS	
中学生	6.3	93.7
男	5.4	94.6
女	7.1	92.9
χ^2 検定	NS	NS

(5)友人からの譲り受け経験

(%)	ある	ない
小学校	2.2	97.0
男	1.8	97.3
女	2.4	97.0
χ^2 検定	NS	
中学生	6.2	93.8
男	3.8	96.2
女	8.6	91.4
χ^2 検定	p<0.001	p<0.001

(6)友人への譲渡経験

(%)	ある	ない
小学校	3.3	95.7
男	2.9	96.1
女	3.8	95.4
χ^2 検定	NS	
中学生	6.2	93.8
男	3.6	96.2
女	8.8	91.2
χ^2 検定	p<0.001	p<0.001

友人からの譲り受け、譲渡経験は、わずかではあるが中学生女子の方が男子より「ある」の回答が多かった。

(7)医薬品の使用時における注意点(複数回答)

(%)	薬の注意書きを見る	いくつ飲むか確認する	いつ飲むか確認する	食事をしたか確認する	水で飲むようにする	体質を確認する	自分ではあまり気をつけない	その他
小学校	65.9	86.4	82.0	37.6	72.1	19.9	5.9	1.9
男	64.5	83.0	78.6	35.9	71.7	18.3	7.0	1.0
女	67.5	89.9	85.9	39.5	72.4	21.2	4.8	2.8
χ^2 検定	NS	p<0.01	p<0.01	NS	NS	NS	NS	NS
中学生	56.0	82.0	78.1	36.4	62.9	11.6	5.7	1.1
男	53.9	78.1	75.2	32.7	60.7	11.7	7.4	1.0
女	58.1	86.2	81.2	40.2	65.3	11.8	3.7	1.3
χ^2 検定	NS	p<0.001	p<0.05	p<0.01	NS	NS	p<0.01	NS

医薬品を使用する時には、小学生・中学生いずれも、いくつ飲むか、いつ飲むか確認するの回答が多かった。また女子の方が男子より「確認する」の回答が多かった。

(8)医薬品に関する用語の認識度(複数回答)

(%)	一般用 医薬品	医療用 医薬品	ジェネ リック 医薬品	かかり つけ薬 局	お薬手 帳	ドーピ ング	学校薬 剤師
中学生	47.4	62.9	43.7	59.6	89.7	75.4	35.0
男	43.8	56.1	38.7	50.3	84.7	82.2	31.7
女	51.2	69.4	48.3	68.9	94.7	68.1	38.4
χ^2 検定	p<0.05	p<0.001	p<0.001	p<0.001	p<0.001	p<0.001	p<0.05

ドーピング以外の認識度は女子が男子より高かった。お薬手帳の認識度は高く、一方、学校薬剤師は認知度が低かった

※「知っている」と回答した割合

(9)医薬品に関する知識の理解度(複数回答)

(%)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
小学校	77.8	72.1	44.0	49.6	54.8			
男	74.3	69.6	39.8	45.4	55.4			
女	81.5	75.0	48.2	54.2	54.2			
χ^2 検定	p<0.01	NS	p<0.01	p<0.01	NS			
中学生	69.3	69.7	39.5	41.6	58.6	79.9	73.8	33.5
男	62.0	66.4	37.5	39.3	58.4	74.2	69.6	33.6
女	76.4	72.9	41.4	43.4	58.6	85.5	77.9	32.9
χ^2 検定	p<0.001	p<0.05	NS	NS	NS	p<0.001	p<0.05	NS

- ①薬を牛乳やジュースで飲んではいけない場合がある
 ②錠剤をガリガリかんで細かくして飲んだり、カプセル剤の中身を出して飲んだりすることは、よくない場合がある
 ③薬の飲み方の(食間)とは、食後2時間程度たってから飲む薬のことで、食事中に飲む薬ではない
 ④かぜで病院へ行き、5日分の薬をもらって、3日で熱も下がりがり学校に行けるようになっても、残った2日分をすべて、飲まなくてはならない場合がある
 ⑤ほとんどの薬には、副作用があるといわれている
 ⑥正しい量の薬を飲んで、すぐに効かない場合でもそれ以上の量の薬を余分に飲んではいけない
 ⑦定期的にも薬を一度飲み忘れたら、次に飲むとき、2回分をまとめて飲んではいけない
 ⑧市販の風邪薬には、症状を和らげる成分は入っているが、病原体を殺す成分は入っていない

全体的に、薬を牛乳やジュースで飲んではいけない場合があることへの理解度が高かった。中学生においては、正しい量の薬を飲んで、すぐに効かない場合でもそれ以上の薬を余分に飲んではいけないことへの理解度が高かった。一方、薬の飲み方の(食間)とは、食後2時間たってから飲む薬のことで、食事中に飲む薬ではないことへの理解度は低かった。全体的に、理解度は女子の方が男子より高い傾向があった。

(10)学校での医薬品に関する授業経験

(%)	ある	ない	わから ない
中学生	29.1	17.1	51.2
男	34.0	17.9	44.6
女	24.3	16.4	57.6
χ^2 検定	p<0.001	NS	p<0.001

医薬品に関する授業経験があると回答した割合は3割程度であり、半数ほどの生徒が「わからない」と回答した。

(11)学校での医薬品に関する授業科目((10)で「ある」と回答した生徒)

(%)	中学校の 保健体育	総合学習 または 学級活動	講演会	その他	おぼえて いない
中学生 : 355	65.6	29.6	34.9	1.7	29.6
男 : 207	67.6	29.0	34.3	1.9	23.7
女 : 146	62.3	30.8	35.6	1.4	38.4
χ^2 検定	NS	NS	NS	NS	p<0.05

保健体育の授業が最も多く、次いで講演会が多かった。

3. 生徒における「医薬品に関する授業」の有無と薬に関する用語および知識の関係

((10)で「ある」または「ない」と回答した生徒)

(1)医薬品の購入・譲り受け・譲渡経験

(%)	ある	ない	(%)	ある	ない	(%)	ある	ない
ある : 355	6.8	93.2	ある : 355	7.6	92.4	ある : 355	7.0	93.0
ない : 209	6.2	93.8	ない : 209	3.8	96.2	ない : 209	5.3	94.7
χ^2 検定	NS		χ^2 検定	NS		χ^2 検定	NS	

(2)医薬品に関する用語の認知度(複数回答可)

(%)	一般用 医薬品	医療用 医薬品	ジェネ リック 医薬品	かかりつ け薬局	お薬手帳	ドーピン グ	学校 薬剤師
ある : 355	54.1	65.9	49.6	61.4	91.3	78.9	38.0
ない : 209	47.8	65.1	43.1	58.9	90.0	72.7	34.0
χ^2 検定	NS	NS	NS	NS	NS	NS	NS

(3)医薬品に関する知識の理解度(複数回答可)

(%)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
ある : 355	73.0	75.2	41.4	42.3	64.5	83.7	78.3	36.6
ない : 209	68.4	66.0	42.1	41.6	59.3	78.9	70.8	31.6
χ^2 検定	NS	p<0.05	NS	NS	NS	NS	NS	NS

「医薬品に関する授業」を受けたことが「ある」と回答した生徒と「ない」と回答した生徒との間で、薬品の購入・譲り受け・譲渡経験が「ある」と回答した割合に差はみられなかった。医薬品に関する認知度、理解度について、錠剤をガリガリかんで細かくして飲んだり、カプセル剤の中身を出して飲んだりすることは、良くない場合があることについては、「医薬品に関する授業」を受けたことが「ある」と回答した生徒の方が理解度が高かった。その他の項目についても、「医薬品に関する授業」を受けたことが「ある」と回答した生徒の方が認知度・理解度ともに高い傾向にあった。

4. まとめ

体調不良時の対処において、家族に相談すると回答した生徒は小学生から中学生にかけて減少し、成長に応じた変化が見られた。また、医薬品の使用目的では、多くの小学生、中学生がかぜ、発熱に対して医薬品を使用していることがわかった。医薬品の使用時には、多くの小学生、中学生がいずれも両親・祖父母に相談することがわかった。自己判断による購入経験、友人からの譲り受け経験、譲渡経験はわずかではあるが「ある」の回答があり、特に、中学生では女子に多い傾向があった。

中学生において、統計的有意差はほとんど見受けられなかったものの、医薬品の用語の認知度および知識の理解度は「医薬品に関する授業」を受けたことが「ある」と回答した生徒が「ない」と回答した生徒より高い傾向にあることが明らかとなった。一方で、「医薬品に関する授業」を受けた経験について「わからない」と回答した生徒が半数近くいたことが、課題として挙げられた。

今後、学校での「医薬品に関する授業」が効果的に実施されるよう大学の立場から情報提供およびアプローチをしていきたい。